

(別紙)

平成27年度農林水産祭むらづくり部門農林水産大臣賞受賞

勝連南風原集落におけるむらづくりの概要 「肝高（きむたか）のこころとオクラで集落活性化」

1 地域の概要

勝連南風原集落は、沖縄本島中部の東海岸から太平洋に大きく突出した与勝半島の根元南側に位置している。近年、農村と都市の混在化が進む中で集落人口は年々増加しており、農業ではオクラの栽培が盛んである。

また、城下のむらとして長い歴史を持つ当集落では、琉球王朝時代の優れた指導者である前浜親雲上をはじめ先人たちの肝高（きむたか）の精神（高い志と誇りを持ち自立心に富む）や、獅子舞や棒術等の伝統芸能も含まれる集落の年中行事が大切に守り続けられている。

平成12年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の1つとしてユネスコ世界遺産に登録された「勝連城跡」には、年間17万人の観光客が訪れ、人的交流や経済面で地域に大きな効果をもたらしている。



勝連南風集落原



世界遺産に登録された勝連城跡

2 農業生産活動の特色

勝連南風原集落を含むうるま市は平成17年に県内初の「オクラの拠点産地」に認定。

しかしながら、農家の高齢化が進み、生産量が伸び悩む状況となつたことから、「元気な地域リーダーの育成」、「オクラ特産品開発による地域振興」を目標に掲げ、地域リーダーの育成支援、栽培技術支援、規格外オクラの活用など、オクラを中心とした地域活性化の取組が行われてきたところ。

その結果、新たな青年農業者や定年帰農者が生まれるなど、当集落における農業振興に大きく寄与している。



台風が度々襲来する夏場の安定した収入源となっているオクラ

特に、規格外オクラの利活用のため、沖縄県立中部農林高等学校の女子グループが生産農家と試行錯誤を重ねて開発・商品化した「オクラ麺」はTV・新聞等のメディアで数多く取り上げられるなど反響を呼んでおり、地域の農家や関係機関と連携したこれらの活動は「日本学校農業クラブ全国大会」などでも高い評価を受けている。

さらに、規格外オクラの新たな需要を創出したこれらの取組は、勝連南風原集落に留まらず、周辺地域にも大きな影響を及ぼしており、中部全体のオクラ作付面積増加にも貢献している。



規格外オクラを活用した「オクラ麺」



「オクラ麺」の取組はうるま市青少年特別賞を受賞

3 地域づくりの特色

勝連南風原集落では、時代の変遷を経ながらも、五穀豊穣を願う豊年祭や無病息災を願う「島クサラー」など琉球国時代から続く伝統行事が数多く受け継がれ、集落住民の生活に深く根ざしている。一方で、近年は都市化が急速に進んでいる状況にあり、当集落では住民の連帯感を高める契機とするために、公民館を中心として、青年会、婦人会、子供会やボランティア組織等が連携して、集落住民が集う「かっちゃん南風原まつり」や獅子舞、^{うすでーく}棒術、臼太鼓など当集落に古くから伝わる伝統芸能の保存を目的とした「かっちゃん南風原伝統芸能発表会」などの新たな集落行事にも取り組んでいる。

また、ユネスコ世界遺産に登録された「勝連城跡」のお膝元として観光客の増加も著しく、集落内の各団体や住民が協力し合いながら、花と緑あふれる景観づくりにも力を注いでおり、農村・都市混在型の新たなむらづくりの挑戦が続いている。



年中行事で披露される青年エイサー



市民団体による美化活動

以上の勝連南風原集落における取組は、地域の振興・発展等に大きく貢献しているとして評価された。